

第2回 新宮ダムの堤体挙動等に関する技術検討会 審議結果

日 時：平成23年12月22日（木）12:50～16:00

場 所：新大阪ステーションホテルアネックス 2階 平成の間

出席者：阪田憲次座長、鎌田敏郎委員、河野広隆委員、浅井敏彦委員代理、箱石憲昭委員、山口嘉一委員、渡辺博志委員

※芹澤富雄委員の代理で浅井敏彦氏が出席

資 料：資料1 議事次第等
資料2 現地状況について
資料3 堤体下流面の漏水について
資料4 洪水吐きゲート操作性について

審議内容

1. 現地状況について
これまで実施している観測状況等について報告した。
2. 堤体下流面からの漏水の現象について
第1回検討会において、堤体下流面の漏水箇所打継目面の平面的なひび割れ分布を把握するための追加調査が望ましいとされたことをうけて、その調査方法（衝撃弾性波探査）について審議した。
結果は次のとおり。
 - ・現地調査では、受信センサーの感度のほか、堤体表面への受信センサーの設置方法・場所の厳密な管理が重要である。よって、本調査に際しては、細部について本検討会の専門家と相談しながら進めるのが良い。
3. 洪水吐きゲート操作性に関わる現象について
第1回検討会において、より現実的なゲート側の対策案および堤体側の対策案のさらなる具体化と見込める効果の整理が必要とされたことをうけて、その内容を審議した。
結果は次のとおり。
 - ・対策案としては、扉体擦合せと戸当り付替を組み合わせる案8を念頭に進めるのが良い。その際、戸当り付替に関しては、放流時の水理的な点を配慮する必要がある。
4. 今後のスケジュールについて
 - ・第3回検討会は2月に実施することとした。

（以 上）